

## 5 モデル校実践報告 [大崎市立岩出山中学校]

### (1) 実践概要

校内テーマ

小・中・高の学校教育における一貫した支援体制の構築  
～通級指導教室における指導・支援に焦点を当てて～

本校の「共に学ぶ教育推進モデル事業」の取組は、通級指導教室における指導・支援に焦点を当てたものである。本校の入学生は、ほとんどが岩出山小学校出身者である。

岩出山小学校では通級指導教室が開設されており、進学時には、小学校での通級指導の内容も含めて引き継ぎがあった。そのため、通級してきた新入生徒にどのような特性があり、どのような通級指導を受けてきたかを把握することができた。

共に学ぶモデル事業実践（校内研修）では年3回の共に学ぶ「専門家チーム」の訪問を受け（令和2年度は2回）、「通級指導の実践内容」「学びにくさのある生徒への理解」「学びのユニバーサルデザイン」などについての講話をいただいた。また、共に学ぶモデル事業実践の中で「通級対象生徒の検討会」や「通常の学級での困り感のある生徒へのアプローチの仕方」といったケース会議なども行った。

通級指導教室を中心とし、分かりやすい、学びやすい授業づくりを目指し、実践に取り組んだ。

### (2) 平成30年度取組の概要

重点的な取組内容	(1) 通級指導教室生徒の実態把握方法の研修 (2) 通級指導教室対象生徒に対する指導・支援の実践研修 (3) 校内研修を通しての、教職員の特別支援教育や通級指導教室に対する共通理解
成果	(1) 通級指導教室対象生徒の実態を知り、担当教員とのレポート形成に努めることができた。 (2) 生徒の実態に合った様々なアプローチの仕方を考えることができた。 (3) 通級による指導とは何か、発達障害とは何かについて、全職員での共通理解を図ることができた。
次年度の課題	・通常の学級でのユニバーサルデザインを意識した授業づくり ・通級による指導開始に当たっての計画づくり ・集団の場、集団行動での生徒の社会性を養う必要性

### (3) 令和元年度の取組の概要

重点的な取組内容	(1)ユニバーサルデザインを意識した授業づくり (2)通級指導教室運営の計画づくり (3)通級指導教室における個に応じた指導方法の工夫
成果	(1)ユニバーサルデザインについての研修会を通し、全職員で共通理解を図ることができた。 (2)個別の指導計画や、年間を通しての運営計画を作成した。 (3)実践的な指導方法を工夫した。
次年度の課題	・通常クラスにも困り感を抱える生徒が多いため、授業全体のユニバーサルデザインを教員が一層共通理解して行く必要性 ・障害別の課題設定の指導内容の構築 ・通級指導教室への入級のためのシステムづくり

### (4) 令和2年度の取組（まとめ）

指導目標	(1) 対象生徒の抱える課題改善（軽減） (2) 対象生徒の生活能力の向上
指導目標に対する主な手立て	(1) 生徒の実態に合わせた指導方法の実践 (2) 自己理解とSST（ソーシャルスキル・トレーニング）を主にした授業実践と学級活動や学校行事などの連携した取組
経過	(1)について 【通年を通して導入時】 ・「気持ちメーター」の活用 授業の導入時に、自分の気持ちを考え、自分の気持ちを話すことによって落ち着いて授業に臨むことができるようになってきた。自分の気持ちを整理してまとめて話すだけでなく、アンガーマネジメントの学習としても役に立った。 【学校行事後に】 ・5W1Hを使った作文 学校行事の後に、「体育祭の思い出」「修学旅行の思い出」という題材を取り上げ、5W1Hを使って、できごとをまとめる作文に取り組んだ。自分の考えをまとめて話すことができない生徒にとっては、項目立ててものごとを記述していくことで、頭の中で整理することができた。作文学習を続けていくことで、他の人にも分かりやすい内容で、発表も堂々とできるようになった。

	<p>(2)について</p> <p>【6月】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己理解 自分について知る、「何ができて」「何ができないのか」自己理解をすることで、自分の強み・弱みについて考え、どの部分を頑張っていけばよいか分かるようになった。</li> <li>・学級活動や学校行事での取組 通級指導教室で、学習したソーシャルスキルを実際に活用させる場は、普段の生活であり、学級活動や行事等の集団の中で、学んだことを生かせるよう指導支援した。</li> </ul>
<p>成果とまとめ</p>	<p>指導目標について</p> <p>(1)について 授業導入時に「気持ちメーター」を活用することで、自分の気持ちを整理して伝えることができるようになった。また、自分の感情や考えを話すことで、怒りの気持ちを静めることもできるようになった。</p> <p>(2)について 自己理解を進めることで、自分の特性に気付き、どこに焦点を当てて生活改善をしていけばいいのか気付くことができた。集団の中での関わりにはまだ改善する点はあるが、不安や要望などを学級担任や通級指導教室担当に話ができるようになってきた。</p>
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の生徒は岩出山小学校からの入学生がほとんどである。そのため、小学校の通級指導教室から入級していた生徒については、個別の指導計画をもとに、引継ぎを行っている。その際、生徒の障害について、「困り感はどんなものか」「どのような実践をしてきたのか」「どのような教材を使っていたのか」などの内容を引き継ぎ、中学校で継続して生徒の課題解決ができるように進めてきた。その継続指導指導により、生徒の成長が見られた。</li> <li>・保護者には、「連絡ファイル」の協力をいただいている。連絡ファイルとは、通級指導教室で学習したことを、通級による指導に関わる担当教員から担任、保護者へと回覧し、生徒の学習内容や様子の共通理解を図るように活用している。 また、個別の支援計画作成にも、保護者からの協力をいただき、年度末に、次年度の通級指導教室での学習について継続の有無や、本人の悩みや困り感についての面談を行っている。</li> </ul>

今後の課題	本校独自の通級指導教室運営は、ある程度の形ができあがったが、これからは安定的・継続的に通級指導教室を運営していくための仕組みづくりが必要になってくる。まずは、学校側の指導体制（人員確保等）、そして、担当者や教員全体が学ぶ研修の機会（専門性の向上）、さらにそこから学んだことを生かし、生徒が抱える多種多様な課題への指導方法の検討と課題を抱える家庭へのフォローが今後の課題として考えられる。
-------	---

## （５）「共に学ぶ教育推進モデル事業」について

### ア 個別の支援を要する生徒の実態把握と障害理解の研修会とケース会議

- ・ 専門家チームの指導助言について

実態把握の重要性や通級指導教室での具体的な授業実践例について指導助言をいただき、実践に生かすことができた。

- ・ 校内研修とケース会議

発達障害、通級指導教室についての教職員の研修を行い、全職員での共通理解が図られた。

- ・ 小学校との連携について

中学校進学時に生徒の障害についての詳しい引継ぎを行った。また、小学校での通級指導教室の授業の進め方など、中学校でも引き続き取り組ませることができ実践内容や教材の紹介などを通して、指導に生かすことができた。

### イ 多様な学びの場の設置

- ・ ユニバーサルデザインを取り入れた学びについて

通級指導教室でのユニバーサルデザインを取り入れた学びだけではなく、特別支援学級や、通常の学級においても、誰にでも分かりやすい学びについて研修し、理解を深めることができた。

- ・ 通級による指導

日常生活や授業において困り感を抱えている生徒について、通級指導教室の支援を受けることで、授業における困り感の解消だけではなく、生徒にとって安心できる場所にもなっていた。